ガーナでそろばんプロジェクト 111 号（2023 年 12 月 01 日）

★★　小学校義務教育に必要な算数って？　★★

新年度が十月から始まり間もなく2か月になります。十二月の第二週から学期末テストが始まりスクールバケーションとなり年明けまで学校は休みになるのですが、前年度の一月に始まり八月に終わるというたった八か月の一年間に比べれば、今年度は見通しの付く一年となるわけです。さて、新年度が始まり、新校舎の教室も完成する度に該当クラスは新校舎の新教室に移動しているので、現在三年生までが新校舎で学び、旧校舎では、それまでKG2が使用していた教室に中学三年生、小学一年生の教室に中学二年生、小学二年生の教室に中学一年生が移動し、小学三年生の教室に四年生が入り、六年生まで一つづつ教室を移動して学んでいます。空いた教室は空き教室として残すのではなく取り壊していっています。新校舎はもちろん雨漏りなんてしません。雨も吹き込んで来ないので、早く残りの学年も新校舎に移れると良いなと願うのです。教室は新旧あれど、子どもたちの学びの姿には変わりなく、嬉しいことに子どもたちは私の授業を待ち望んでいる事を有難く思うのです。今年7月まで六年生だった生徒は、数カードの授業が楽しかったとあって、中学生になった今でもその数カードの授業を「シャッフルナンバー♫シャッフルナンバー♫」と唄いながら望むのです。しかしながら中学生クラスの授業は手芸工作の時間を取るのが精いっぱいです。中学の授業は黒板に書かれている数字や式を見るとたいへん難しい内容の授業をやっています。九九も暗記していなく、繰り上がり繰り下がりも理解していない中で、果たしてこの数式が解けるのかと毎度ながら悩んでしまうのです。さて、数カードを使った授業は十一月に六年生で行なうことが出来ました。数直線と一緒に行ないました。私が行なう算数の授業は基礎です。数直線も数カードで数字を作るのも日本の算数の授業だと三年生四年生がやるレベルです。それでも基礎が大切だからこそやるのです。私の行なう授業を同じ教室で、生徒のノートの丸付けをしている担任はどのように見ているのか？知りたいです。直接は聞かないけれど「簡単な事をやって。」という思いがあるのなら残念です。以前95号で触れた三年生で四桁の繰り上がり繰り下がりを教えている事にもつながるのですが、この時に算数の授業をしていた先生は今だからこそ書けることですが“わたし、トシコよりも難しい事教えているの。すごいでしょ”感たっぷりで私を見ていたことは忘れることはないです。ガーナの先生は教えている内容の難しさに自己陶酔してしまい、生徒が理解していないことに気づかないので残念でなりません。奇しくも数日前に、千葉県の小学校で学力向上のために算数の授業に塾講師を取り入れるというニュースを知りました。このニュースに関して×“旧ツィッター”では小学校教員のやる気を損なわせる、教員のなり手がますます減るなどの声が目立ち、授業を受けた生徒の感想も“わかりやすい”という声であったので、国語も理科も社会もこのままだと小学校教員より外部講師が全て授業を行なう日がきてしまうのではないか？と危惧しました。このニュースで引っかかったのが“学力向上”の言葉でした。小学校という義務教育の場で“学力向上”を求めるのか？“読み書きそろばん“のいう生きていくうえで最低限困らない学力が備われば良いのではないか？と思うのです。私が取り組んでいる事、これまで取り組んできた事で照らし合わせれば、そろばん教室が自ら通う学力向上の場、授業で行なう基礎が生きていくうえで最低限困らない学力を備えることだと思うのです。今回授業を行なった六年生には明らかに過齢児も在籍していました。背がグンと高い彼はとびきりの笑顔で数カードを持っていたのがとても印象に残る授業でした。

報告　TOSHIKO

協賛

トモエそろばん様